

Ⅲ. 大 阪 城 周 辺

20 月山貞一旧居跡

大阪府中央区鑪屋町1-2

- ▶ 月山貞一 [天保7年(1836)～大正7年(1918)]は、幕末から維新にかけての大坂を代表する刀工でした。明治天皇の佩刀や伊勢神宮の宝刀を造っています。



21 大村益次郎寓居(漏月庵)跡

大阪府中央区徳井町1-2-2

- ▶ 大村益次郎は、文政8年(1825)周防国吉敷郡鑄銭司村に生まれました。大村益次郎が村田良庵(すぐ後に蔵六と改名)と名乗っていた弘化元年(1844)、22歳の時来坂し、緒方洪庵の適塾に入門しました。入門当時は塾内住み込みで畳1畳分しか与えられず、日夜勉強に励んでいたようです。一旦、長崎へ行きシーボルトに学びますが、嘉永元年(1848)再度適塾に戻り、塾頭を命じられます。嘉永2年(1849)4月、塾を出て倉敷屋作右衛門の座敷(大阪市西区江戸堀2-6)に移り住み、ここから塾に通いました。しかし、そこに住んでいたのも束の間で、善庵筋に家を借り、この地へ移っています。この漏月庵については、司馬遼太郎の小説「花神」(上巻P94～95/新潮文庫)では次のように紹介されています。

蔵六は開業もしていないのに患者を診ることは好まない、とってなるべくことわったが、倉敷屋の娘のお町というのが社交家で、人に頼まれてきては蔵六に患者を押し付け、しかもまめまめしく助手の役目までしたために蔵六は小うるさくなり、「思うところのござつて」と、作右衛門にことわり、一月ぐらいでこの家を出、上町の徳井町に借家を借り、そこへ移った。

蔵六の住んだ町の上町の徳井町というのは、いまは東区(注:現中央区)徳井町という。蔵六は、かれがうまれてはじめて一ツ家のあるじになったことを愛して、「漏月庵(ろうげつあん)」と名づけ、老婆を一人やとい、ここから適塾にかよった。(途中省略)蔵六がはじめてこの家に入った夜は月がとびきりあかるい夜で、寝ころんでいると、軒のひさしの破れから月がみえた。それがひどく気に入って、そう命名した。



大村益次郎



大村益次郎寓居(漏月庵)跡

また、筆書房から出版された大村益次郎先生伝記刊行会の編集による「大村益次郎」には次のように記載されています。(P116)

大村子爵家の「開書文庫」によれば「嘉永二年閏四月朔日適々齋塾より江戸堀四丁目伊藤屋敷前の倉敷屋作衛門の座舗に外塾す。同閏四月廿八日上町錢南筋徳井町に轉塾す。漏月庵と號す」と見えてゐる。先生は嘉永三年歸郷まで前記の所に住居して、適々齋塾に通ひ、塾生の監督・訓育等に當つた。昭和十八年六月三十日大阪の大村卿遺徳顕彰會では、有志相計り、高さ四尺の花崗岩に基を左の適當の場所に建碑せられたのである。
大村益次郎先生寓地址（西区江戸堀北通三丁目弁護土黒木勝一氏宅附近）
大村益次郎先生漏月庵址（東区徳井町一ノ一一山崎徳次郎氏宅附近）

22 井原西鶴終焉の地・文学碑 大阪府中央区谷町3-2

- ▶ 井原西鶴は寛永10年(1642)に大坂の裕福な家に生まれました。15歳の頃、俳諧に興味を持ち、号を鶴水と名乗り、各地の句会に顔を出します。34歳の頃、妻を失い、失意の中で独吟千句を詠み、初めて句集を刊行しました。43歳の時、住吉大社で開かれた「矢数俳諧興行」で23,500句をわずか一昼夜で詠むという驚異的な記録を残しています。換算すると1分間に平均16句を詠んだ事になります。そのほか、「日本永代蔵」「世間胸算用」などの作品を残しています。元禄6年(1693)、52歳の時、この付近で亡くなりました。



23 後藤象二郎ゆかりの地 大阪府中央区大手前3-1

舎密局(せいみきよく)跡

- ▶ 舎密はオランダ語シエミー（化学の意）の当て字です。当時の大阪府知事 後藤象二郎は、富国強兵には理化学の教育振興が重要だと考え、明治2年(1869)5月、オランダ人ハラタマを招いて大阪では初めての公立学問所を開校しました。最初の生徒はわずか5名だったそうです。明治22年(1889)京都に移転。第三高等学校を経て、京都大学となりました。当時からあった楠が、現在も残っています。



第2代大阪府知事 後藤象二郎

〔任期：慶応4年(1868)7.12～明治2年(1869)2.4〕

後藤象二郎は土佐藩出身。暗殺された吉田東洋は義理の叔父にあたります。

後藤は藩の参政となり活躍します。大政奉還の実現に向けて坂本龍馬とともに奔走します。

王政復古の大号令の後は参与に任じられ、大阪府知事、左院議長、参議を歴任しました。

初代大阪府知事醍醐忠順〔任期：慶応4年(1868)5.2～同年5.23〕が離任後、一時後藤象二郎と小松帯刀が府事管理として知事の代行を務めました。慶応4年7月、後藤は第2代大阪府知事に任命されました。



24 K.W.ハラタマ博士像

大阪府中央区大手前3-1

- ▶ K.W.ハラタマ博士(1831～1888)の像が舎密局跡にある楠樹の下にあります。像の説明板には次のとおり記載されています。

明治二年(1869)五月大阪府によりオランダ人化学者クーンラート・ウォルテル・ハラタマを教頭とする舎密局(せいみきょく)がここから二百メートル北の大手前一带に開校された。

舎密とは化学の意である。

舎密局は明治時代のわが国で最初に開かれた理化学校でハラタマによりこの国の近代化に必須の自然科学の教育が行われた。

日本の初期の化学研究の多くはこの舎密局に端を発している。

舎密局はその後、理化学と改称され、明治五年に閉校されてその任を終えたが、その流れから京都舎密局、大阪司葉場、第三高等学校が生まれた。

日蘭交流四百年を記念して、ここに日本の化学の父、ハラタマ博士の像を遺し、その功を永世に伝えたい。



25 大阪憲兵隊本部跡

大阪府中央区大手前3-1(大阪府警察本部)

- ▶ 大阪府警察本部がある場所には、かつて大阪憲兵隊本部がありました。憲兵(けんぺい)とは軍の兵科の一つで、主として軍内部の治安維持や犯罪捜査にあたる軍事警察のことです。明治14年(1881)、憲兵条例により設置され、陸軍大臣管掌で警察活動を受け持ちましたが、次第に、その任務は反戦思想取締りなど、国民の思想弾圧を主とする内容に変わっていきました。

